

令和元年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

呉中央中学校区 校番 13 学校名 呉中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>貫 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造</p>	生徒が主体的・意欲的に学び、思考力を育む授業づくりを進める。	「授業が分かる」と回答した生徒の割合は、7年91%、8年85%、9年90%であった。全体としては目標値を達成しているが、8年生の数・英において若干下回っている。苦手意識が強いところもあるが、「分かる授業」の実現に向け課題解決型の深い学びができる授業過程の工夫が必要である。	〈呉中央学園 授業モデル〉に基づいた授業改善に取り組み、「分かる授業」づくりを全ての教科で積極的に取り組んでいく。また、教科グループでの授業改善を目指した授業研究にも引き続き取り組む。
		個別支援プログラムを作成し、組織的に取り組む。	通過率30%未満の割合が7年生では9.5%、8年生では11.3%、9年生が9.7%であった。特に8年生の1月実力試験では、英語：25%、数学：22%、9年生の11月実力試験では英語：23%という割合であった。生徒間の学力差が拡大しており、生徒個々の状況に対応した指導が充分できていないと考えられる。	基礎・基本に関することはしっかりと教える。そのためにも授業内でその時間も確保する。定期試験、課題の達成状況等をもとにして、配慮が必要な生徒に、授業中や放課後の時間を使い、個別指導を行う。夏期休業中の補充学習も継続していく。
		家庭学習と授業との関わりを強め、自学自習のできる生徒の育成	目標時間の達成率は、7年72%、8年66%、9年63%であった。生徒の実態に合った課題の内容の提示など、個別の支援が必要である。	家庭学習強化週間だけでなく、「呉中央スタンダード」の家庭学習の欄を活用し、学習内容等の個別指導や保護者に向けて通信を使つての呼びかけ等を積極的に行う。
**	<p>貫 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造</p>	生徒の『心の居場所』がある学校づくりの推進	学級活動や生徒会の委員会活動において一人一役の役割を与えて活動を行った。自尊感情に関するアンケートでの肯定的な回答は83%であった。しかし、「自分には良いところがある」の項目で肯定的な評価をつけた生徒は7年で84%、8年は66%、9年は76%、全体では75%という結果になった。仕事や役割を評価するための取組がまだ十分でなく、自己の肯定感を高める活動に工夫や取組が評価される制度が必要である。	学級や学年、全体に様々な活動を周知・評価する取組が必要になる。各学年の実行委員の活動や学級の集団作りの取組を充実させていく必要がある。活動が評価され、周知されるためにも各員会の活動の報告や学級の取組が目に見えるように工夫していくことが必要である。
道徳教育の改善・充実を図り、自他のいのちを大切にす生徒の育成		「道徳の時間は役に立つ」と回答した生徒の割合は全学年ともに85%以上であった。否定的な生徒はいるものの、9年生は前回よりも減っており、道徳の時間を通して、自分の生活についてふり返ったり、考えたりすることでよりよい生き方に繋がると感じている。7・8年生は若干数ではあるが、否定的に捉えている生徒が増えており、自分事として考えることができるような授業の工夫が必要である。	ペアやグループの議論を発問に合わせて意図的に設定するとともに、「話し合いのススメ」カードとホワイトボードをより活用していく。また、道徳ノートの活用例を作成する。「十八番授業」を早い段階で計画的に組み込み、より学年で教材研究をした上で授業が実施できるようにしていく。	
*	<p>貫 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成</p>	施設一体型小中一貫教育の強みを活かし、運動的諸活動の充実を図る。	「くれチャレンジマッチ・スタジアム」種目にチャレンジすることで、走運動への意欲を高めることができた。50mと20mシャトルランの2種目で、50m走は昨年度に比べ男子が100.0%、女子が81.0%、20mシャトルランでは男子が90.5%、女子が80.0%の生徒の記録が向上した。授業の中でも走運動を積極的に取り入れたことがタイムの向上につながっている。運動諸活動に関しては、各学期でクラスマッチを実施した。	昨年度比では大きく向上しているが、全国平均や県平均と比較すると、いずれも下回っている。引き続き運動への興味関心が高まるよう、「楽しい」活動を仕組んでいく。また、継続的に補強運動や走運動を取り入れた授業を行い、体力の強化を行っていく。
家庭と連携を強化し、協働で生徒の成長を扶ける環境をつくる。		「朝、毎日ご飯を食べているか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒は、7年生が84%、8年生が87%、9年生が92%であった。とてもそう思うと回答した生徒は7年生は63%、8年は77%、9年は76%で、72%の生徒が確実に朝食を食べて登校している。遅刻については、目標値を達成しているが、延べ回数は7年生95回、8年生202回、9年生180回であった。一度も遅刻をしなかった生徒は162人で61%である。また、複数回遅刻する生徒が固定化してきている。余裕を持った時間に起床する習慣をつけるとともに、メディア等と適切な付き合い方ができる力をつけていく必要がある。	セルフコントロールができる力をつけ、基本的な生活習慣を身に付けさせる必要がある。引き続き、家庭学習強化週間で起床時間、就寝時間、学習開始時間、メディア終了時間を把握するとともに、気になる生徒については家庭との連携を図っていく。また、メディアコントロール週間も設定し、メディアとの上手な付き合いができるように関係機関と連携をしながら取組を強化していく。遅刻については、複数回遅刻をした場合には家庭との連携を図り、保護者とともに取り組んでいく。	
<p>貫 業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する</p>	生徒と向き合う時間を確保する。	研修内容により検討会議の回数が増加した時期があり、それに伴い終了時間も下がる結果となった。	会議等の終了時刻、到達目標を事前に周知し、時間厳守で会議の運営を進める。	
	時間外勤務の縮減を図る。	部活動規定を遵守し、短時間で体力・筋力・技能を高めることができるよう、部活動計画を見直した。	引き続き下校時刻を守り、準備、片付けを迅速に行うように工夫する。分掌業務の終了目標時刻を決める。	